

四国こどもとおとなの医療センター
小児整形外科医長

横井広道氏

香川の
医療
最前線

57



けがをしたわけでもないのに、子どもが足が痛いと言ってくる。病院に連れて行くものの、痛みが治まっていく

たり、異常はないと言われたり。いわゆる「成長痛」。親から「骨が伸びている痛みだから我慢しなさい」と言われた人も多いのではない

か。成長痛について、四国こどもとおとなの医療センター小児整形外科の横井広道医長に聞いた。

「成長痛」とよく耳にするが。

ウェブサイトを調べてみると、典型的な幼少期の下肢痛は45%程度に過ぎず、スポーツ障害や膝のオスグッド病なども含めて使われていた。病態の異なる疾患

に対して、成長痛という呼称「が広く使われている現状がある。

一病院で言う「成長痛」

一原因は。

子どもの成長痛

続く痛みは受診必要

骨と直接の関係なし

の特徴は。

3歳から小学校低学年の子どもによく見られ、夕方から夜間、主に膝周辺の下肢が痛む。痛みの程度はさまざまで、泣くほど痛がることもあれば、さすったり抱っこしたりすると改善されることも。不定期に繰り返

19世紀にはリウマチとの関連が疑われたが、その後否定され、以後は基礎疾患の明らかでない痛みと考えられるようになった。1950〜70年代にかけては、心因や家族関係が原因とみられる論文もあった。長子とか甘えん坊とか、あるいは家

「よい・ひろみち 1985年防衛医大卒。自衛隊病院、国立善通寺病院、香川小児病院などを経て2015年から現職。日本整形外科学会専門医、日本リハビリテーション医学会専門医。高知県安芸市出身。62歳。

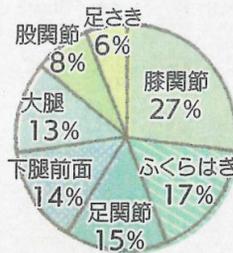
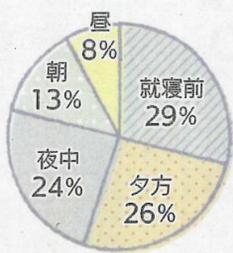
族環境の変化が誘因とされたが、いずれも根拠に乏しい。その後、血流計測や画像検査などが進んだが、異常値が出るわけがなく、いまだはっきりした原因は分かっていない。

「骨の成長に伴う痛み、と聞いたことがあるが、それは違う。骨の成長で痛みが発生するというのは、医学的にはない。だから、

「一過性下肢痛」などを使う方が適切だ。一病院ではどのように診断するのか。

一般的に使われる診断基準はないが、当院では、痛みが8時間以内、来院時に無症状、診察で異常所見なし、エックス線検査で異常なしの4項目を満たす時に「成長痛」と診断している。エックス線検査は、骨折や腫瘍などがないか確認するため、最小限にとどめている。

「痛みが強いと心配になるが、痛みの強さは診断上の意義は少なく、むしろ持続時間



成長痛の発生時間帯と痛みの部位

間が問題だ。数時間以内に治まるようなら心配はないが、終日続くとか、短時間でも毎日とか、生活に影響が出ている場合は、それ以外の疾患の可能性もあるので、ちゃんと受診した方がいい。

一治療法は。

痛みに対する特別な治療法はない。痛がる部位をさすったり、外用剤を貼ったりするくらいで、鎮痛剤を飲んだり座薬を使ったりする必要はない。

一将来の心配は。

後遺障害についての報告はない。小学生以降では痛みの頻度は自然と少なくなっていく。

■ 四国こどもとおとなの医療センター小児整形外科
小児の四肢・脊柱の骨折、炎症、変形、先天性疾患に対して専門医2人で診療している。
所在地：善通寺市仙遊町2丁目1の1
電話：0877 (62) 1000

